

第2回 観音寺市新道の駅市民検討委員会 議事要旨

開催日時 令和5年3月15日(水) 19時00分～21時00分
開催場所 観音寺市役所本庁舎4階 防災対策室
出席者 委員14名、事務局5名

【会議資料】

資料1 第2回観音寺市新道の駅市民検討委員会資料
資料2 新「道の駅かんおんじ（仮称）基本構想（素案）」

【次第】

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議 題

(1) 新「道の駅かんおんじ（仮称）」基本構想（素案）質疑事項について

事務局： 「資料1」を用いて説明。

委員長： 説明いただいた内容で、ご質問、ご意見ありますか。

委員A： キャンプや車中泊、EV充電などができる道の駅があるといいと思いました。

委員長： 車中泊やEV充電は最近、話題になっているので、基本計画で具体的に検討する時には考慮しないといけない要素になると思います。特に車中泊については、RVパークにするなど、道の駅運営者と利用者がトラブルにならないようにしなければなりません。

市の情報発信不足について意見がありますが、道の駅の情報発信をするために、ホームページやパンフレットを作って、行政側から市民にコンタクトできるような道筋を道の駅に盛り込んでいくことを考えていければいいと思います。

また、道の駅には基本、産直市の整備が想定され、産直市においては、必ず第一次産業の方が関係者として出入りされます。道の駅で施設面積に余裕があるなら、多目的スペースを設け、そこで普段、市役所でやっている就農相談などを開催するのも良いと思います。子育て支援施設の整備も検討されているようなので、道の駅で情報発信をしていくといいと思います。

委員B： 最近、全国の道の駅では、宿泊施設が併設されていますが、四国観光の中継地点として、宿泊施設を併設するのもいいと思います。

委員長： 市長も言っていたような多機能の道の駅というビジョンの中では、近隣に誘致するという形で検討に値すると思います。

事務局： 道の駅を拠点に”にぎわい”を創出することが目的ですが、宿泊施設の事業方式は民設民営方式になることが想定されます。

(2) 第1回観音寺市新道の駅市民検討委員会後からの変更点について

事務局： 「資料 1、2」を用いて説明。

委員長： 説明いただいた内容で、ご質問、ご意見ありますか。

委員長： 第 2 章の「念頭に置くべき、日常機能イメージ」について、楽しみの空間などのタイトル対して空間の説明がそれぞれ 20 項目ありますが、タイトルを削除して、説明だけ記載する方がイメージしやすく、コンパクトでいいと思いました。また、第 2 章の「道の駅」の必要性のところ、「暮らし」の核、「招き」の核、「育て」の核が出てきていますが、第 3 章の新「道の駅」の基本理念のところでも「暮らす」「招く」「育てる」といった同じ言葉が出てきており、重複しているのがややこしく感じてしまうのと、第 3 章の新「道の駅」の基本コンセプトで説明がまとまっているのに、第 2 章の説明に遡って SWOT 分析をしており、話が前後してしまっているところが気になりました。提案ですが、第 2 章の「道の駅」の必要性を第 3 章の最初に移動し、第 3 章の SWOT 分析を第 2 章のまとめとして持ってくる方が二度手間にならないと思いました。

事務局： 再度、検討します。

委員長： 第 4 章の導入施設展開イメージを見て、どのような印象ですか。

委員 C： 子育て施設は賛成です。単なる道の駅で終わるのではなく、そこから出会いの場になったり、若者や高齢者が繋がる場所になったらいいと思います。

委員 D： 温泉や宿泊できる施設があれば県外から来られる方もいいと思います。また、子ども連れの場合、広場や屋内で遊べる施設があれば一日安心して過ごすことができいいし、また友人を招待しやすくなると思います。

委員 A： ぜひ温泉施設のぜひ導入していただきたいです。

事務局： 基本計画策定時に、温泉施設の導入について意見があれば、検討することになります。温泉施設については、イニシャルコストが高額になることが想定されます。

委員多数： 温泉（足湯）などがあれば、癒されて利用が増えると思うし、お遍路さんの休憩所にもなると思います。よくテレビで見かける小さい子どもが、夏場に公園で噴水の周りで遊んだりしています。夏は小川、冬は足湯などの利用もいいと思います。温泉が難しいようであれば温水プールでもあればいいと思います。

委員 B： 県外の道の駅では、図書館を併設しているところもあります。子育て施設を取り入れてもらえれば、幼稚園から小学校低学年のいる子育て世代の来場や、近隣の市の本の返却を道の駅でも返却することが可能になれば、道の駅へ来る機会が増えると思います。

あと、質問ですが、「暮らしの核」で、災害時に利用者が一時的に避難でき、復旧・復興時には物資などの中継地点として機能する暮らしの安全を支え、安心して暮らせる場とありますが、復旧・復興時に広域的な動きをするのみですか。

事務局： 現段階では、一時的な避難所にするかどうかは決まってないですが、基本計画で具体的なことを決めていく予定です。

委員長： 道の駅での産直は、競合施設になる可能性があります。どうですか。

委員 E： 道の駅で、観音寺の特産品を置いて PR ができればいいと思います。

委員長： 観音寺の水産物は、いりこ以外にも色々獲れるのでしょうか。

委員F： 年中いろいろな魚種が漁獲できます。道の駅へ出荷する場合、1月から2月は時化が多く漁に出られないため、道の駅へ品が出せなくなる。代替として干物の販売などが想定されますが、供給する特産物の検討が必要だと思います。

委員長： 野菜と水産物両方あるということは、観音寺市の特徴として出せそうですね。

(3) 新「道の駅かんおんじ（仮称）」をイメージする言葉について

事務局： 「資料1」を用いて説明。

委員長： 説明いただいた内容で、ご質問、ご意見ありますか。特にならなければ、次の議題に移ります。

(4) その他

事務局： 第3回の委員会の予定は、4月19日（水）で、予備日は、4月26日（水）です。その際に、建設候補地を報告させていただきます。また、イメージする言葉も決定したいと思います。

4 閉 会